

# 知識は 旅をする

千葉県立東部図書館だより

2021年 3月

第70号



『成田山花園より市街を見る景』楊堂玉英 画  
（「葉の花ライブラリー」千葉県デジタルアーカイブ）

## ▼ 新型コロナウイルス感染拡大の防止

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当館では「3つの密」（密閉、密集、密接）を避けるとともに、入館時の検温、マスクの着用、手洗い、咳エチケット、対人距離の確保などの対策を引き続きお願いしております。皆様には大変ご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

## ▼ 資料展示コーナーのご案内

### 『SDGs を知ろう』

皆さんは「持続可能な開発目標（SDGs）」という言葉をご存じですか。貧困や不平等がなく、地球環境にも配慮した持続可能な社会を作るにはどうしたらよいか、この機会に考えてみませんか。4月15日まで。

## ▼ 休館のお知らせ

東部図書館は **3月3日(水)から3月12日(金)まで**の間、蔵書点検のため休館します。なお、休館中でも資料の返却はできますので、東部図書館正面入口左側のブックポストをご利用ください。

## ▼ ガラス展示コーナーのご案内

### 『東日本大震災 10年』

今年の3月11日で、東日本大震災が発生してから10年が経ちます。当時何が起きたのかや現在の復興の様子がわかる写真集や体験手記、報告集等を展示します。千葉県内の被災地の被害と復興状況に関する展示も設置しました。4月15日まで。

## ▼ 利用者アンケートを実施しました

令和2年10月27日から11月8日の間、来館された皆様に利用者アンケートをお願いしました。お忙しい中アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

⇒ 「千葉県立東部図書館 利用者アンケート集計結果」を別項に掲載しました。

※上記の内容は、新型コロナウイルス感染症対策等の影響で、中止・変更する場合がございます。ご理解ください。

ホームページ URL

<http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>

スマートフォンの

QRコードリーダーでアクセスできます→



令和2年度 文学講座 報告

# テーマ「古典作品としての『日本書紀』は 「ヤマトタケル」像をどう描いたか」

～『日本書紀』成立1300年記念の2020年に、あらためて考えてみましょう～

講師：山田 純氏（相模女子大学 学芸学部日本語日本文学科教授）

令和2年11月1日(日)

新型コロナウイルス禍が続く中でしたが、手指消毒や換気など感染拡大防止策を講じながら今年度2回目の講座を開催しました。定員を大幅に超えるお申込みをいただき、県民の皆様が図書館イベントを心待ちにしていたことを実感しました。

講演では、成立1300年を迎えた『日本書紀』について、今まであまり語られることのなかった文学的な読み解き方や、そこからわかるヤマトタケルの描かれ方の特徴を探っていきました。

山田先生によれば、『日本書紀』が書かれた時代は中国の古典文学を模倣しながら作文すること、すなわち「典拠を踏まえる」

ことが重要視されていたそうです。このことを踏まえて『日本書紀』のヤマトタケルの記述を読み解くと、彼の業績には『史記』や『漢書』等の項羽と劉邦の記述を典拠として書かれている部分があることから、ヤマトタケルは項羽と劉邦の良い所取りをしたような人物であることを示そうとしたと考えられるそうです。つまり、そんな人物をも臣下とする日本の天皇の偉大さを主張したかったのではないかと、として話を結んでいました。

最初は難しそうな内容及び腰だった参加者の方々も、先生のユーモアを交えた語り口にどんどん引き込まれていったようで、時折笑いが起きつつも非常に興味深くお話を聞いていた様子でした。質疑応答の際には参加者と先生との間で活発なやりとりが行われ、『日本書紀』への熱意と高い関心を伺うことができました。

アンケートでは、『日本書紀』をしっかりと読んでみたくなった」「とっつきにくいと思っていた『日本書紀』だったが、先生のおかげで魔法のように面白く話を聞くことができた」「学術的な面白さのみならず、話の運びや聴衆の心の掴み方も上手な先生で大変楽しめた」「当時の人々の概念、感性を知ることの大切さなど、とても役立つお話を聞くことができた」「良かったです。素晴らしい！」といった、満足のお声が多数寄せられました。



# 東日本大震災から 10年

東日本大震災から、まもなく10年が経過しようとしています。東部図書館では震災に関連した本も多く所蔵しています。

## 「語り継ぐいいおか津波」

被災者聞き取り調査記録編集委員会/編集  
光と風キャンペーン実行委員会 2012年  
[C3693/22]

一度避難したのに自宅に戻って津波に巻き込まれた、逃げようと玄関を開けた瞬間に波が押し寄せてきた、流れ込んだ水に押し流されて家の中で溺れそうになった……。

東日本大震災の時の旭市飯岡地区の方々体験です。この本は千葉県内で震災による津波の被害が最も大きかった旭市周辺の67名の方々の体験談がまとめられています。同じ県内で起こったと思うと津波の恐ろしさがより切実に迫ってきます。被災された方々の言葉から、災害時どう行動すべきか、どのような備えが必要か考えさせられます。災害を自分ごととするために震災後10年を機にぜひ手に取ってみてください。

「子連れ防災手帖 被災ママ812人が作った」  
つながる.com/編 メディアファクトリー 2012年  
[36931/202] 【中央図書館所蔵】

この本には東日本大震災で被災された小さなお子様のいるお母さんたちの体験談が、震災直後と被災生活に分かれて詳しく書かれています。また、避難に必須のアイテムや子供のメンタルケアなど、体験に基づいた防災術も豊富に載っています。

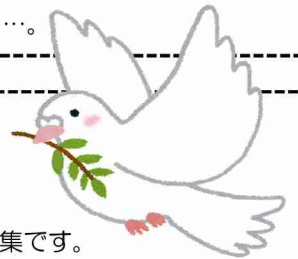
実際に被災したらどのようなことで困るのかわかっておくことで、あらかじめ備えられることも多いのではないのでしょうか。イラストも多く読みやすい本なので、大切な方の命を守るために読んでみてはいかがでしょうか。

## 「そこに音楽があった 楽都仙台と東日本大震災」

梶山寿子/著  
文藝春秋企画出版部 2016年  
[36931/260]

2011年3月11日14時46分。日本中から音が消えた。「被災者が苦しんでいるのに音楽なんて不謹慎だ!!」そんな呪いにかげられたような自粛ムードに包まれ、誰もが声を出すことさえためられた。今、この瞬間に、音楽は必要だろうか?何かの役に立つだろうか?誰かを傷つけることにならないだろうか?この本には、そんな苦悩の末に決断した音楽に携わる人々と被災地の方々とのエピソードが記録されています。

音を失った地に音楽は再びどのように染みわたっていったのでしょうか……。



## 「あの日のこと 東日本大震災2011・3・11」

高橋邦典/写真・文 ポプラ社 2011年  
[36931/130]

2011年3月11日。「あの日」を決して忘れないために開いてほしい写真集です。

地震と津波で跡形もなくなってしまった風景。途方もない虚無感。被災地を襲った津波は、思い出のつまったものすべてを持ち去りました。東北地方で撮影された写真の傍らに、被写体となった方の生きた言葉が添えられています。生々しい言葉は胸に刺さって辛く、読み進めることを躊躇するかも知れませんが、目をそらさないでほしいのです。私たちが決して忘れてはならないことなのですから。

コロナ禍でも

# ♪はじまるよったらはじまるよ♪

特別支援学校  
訪問読書支援

♪はじまるよったらはじまるよ♪ ♪ひとつとひとつでどんなおと？♪  
訪問読書支援のおはなし会は、手遊び歌から始まります。

「本好きの子どもたちを育てるために」東部図書館が東部エリアの特別支援学校への訪問読書支援を始めて4年目になります。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響が長引く中での実施となりましたが、3校が受け入れを希望してくださいました。訪問に当たっては、いつも以上に先生方との事前打合せを入念に行いました。体調が悪くなると訪問できませんので、職員も自身の健康管理には十分に留意して、当日を迎えられるよう気を付けました。訪問前には、担当者4人で、1校につき3～4回の打合せと練習会を行い、準備万端でおはなし会に臨みました。



(おはなし会)

おはなし会が始まると、どの子ども話に聞き入っていました。『ちからたろう』は、12分を超える長編でしたが、迫力のある絵が印象に残っていたようでした。『おやおや、おやさい』では、終わった後、「はくさい負けちゃったね。」と話し掛けてくる子どももいました。よく聴いていてくれたのだと思うと、うれしいです。

プレゼントしたおはなし会のミニプログラムを持ち帰ったことで、家庭でも話題になり、おはなし会の実施は、保護者の方からも好評であったとお聞きました。

(職員の練習会)



もうちょっとゆっくりめくった方がいね。子どもたちに絵がよく見えるように！

練習には自然に熱が入ります。声の大きさや読む速度、ページのめくり方などお互いにチェック！

小学部だけでなく、中学部にもおじゃましました。『しっぽのはたらき』の読み聞かせは、話の中に出てくるしっぽは何の動物のものなのかを当てながら、楽しく聴いてくれました。子どもたちが動物の名前を言い当てると「すごいなあ。」という言葉とともに大きな拍手がわいていました。

今回、緊急事態宣言の影響で訪問が中止となった学校には、予定の大型絵本を配送し、先生方に読み聞かせを行っていただきました。

\*\*\*来年度も訪問読書支援で特別支援学校の皆さんとお会いできることを楽しみにしています。\*\*\*

## 【本年度実施校】

県立飯高特別支援学校 県立東金特別支援学校 県立八日市場特別支援学校(大型絵本の貸出しのみ)

◆今後も県立図書館は学校図書館への支援を通じて、子どもの読書活動を推進していきます。

■県立図書館の資料は、市町立村図書館などを通じて利用することもできます。お近くの図書館、公民館図書室等の読書施設にご相談ください。

■県立図書館では、千葉県に関する資料を収集しています。グループ・職場などで資料を発行されたときには、情報をお寄せください。

### 編集長の独り言

平成23年の東日本大震災から10年です。記憶を風化させないよう、語り継ぎや資料による記録が大切です。時が経つに連れ、人の記憶だけではわからなくなり、資料による確認も必要となります。人間の体験を資料で伝えていくことも図書館の大切な役割です。

編集・発行：千葉県立東部図書館  
〒289-2521 千葉県旭市ハの349

TEL 0479-62-7070

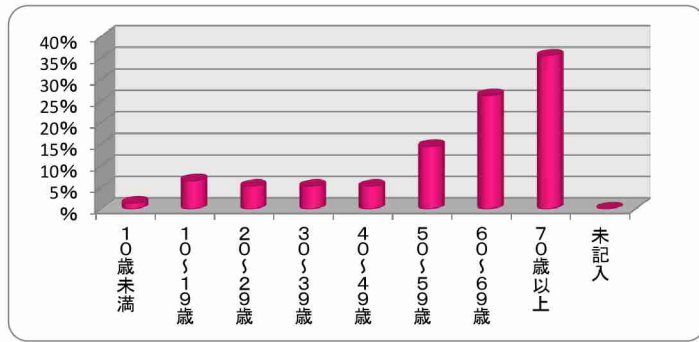
FAX 0479-62-7466

URL: <http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>

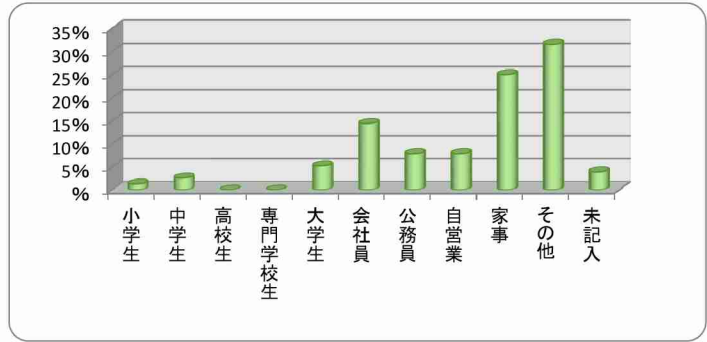
# 東部図書館 利用者アンケート集計結果

令和2年10月27日～11月8日に実施しましたアンケート調査の結果をご報告します。  
アンケート回収枚数は76枚でした。アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

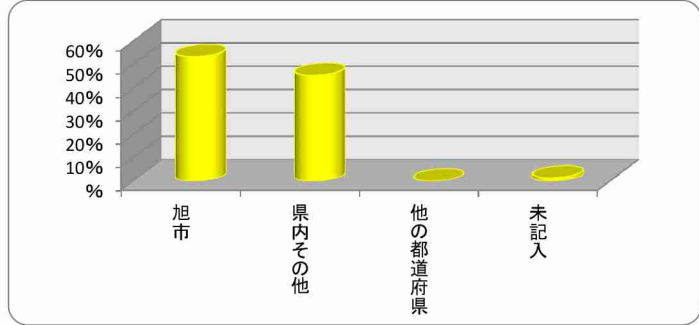
## ○年齢



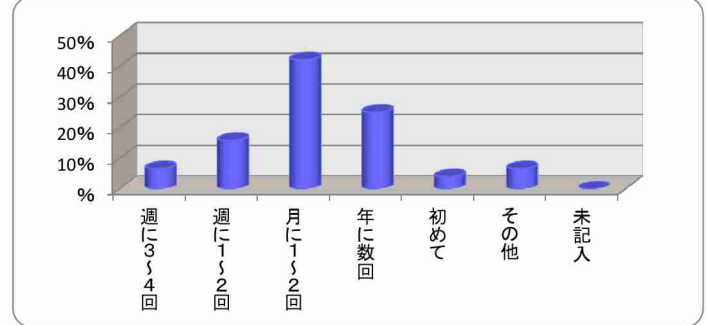
## ○職業



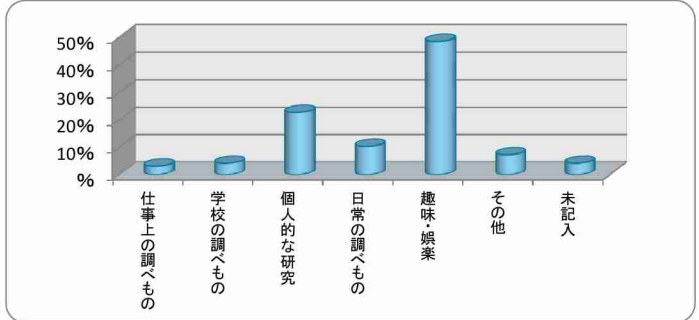
## ○住所



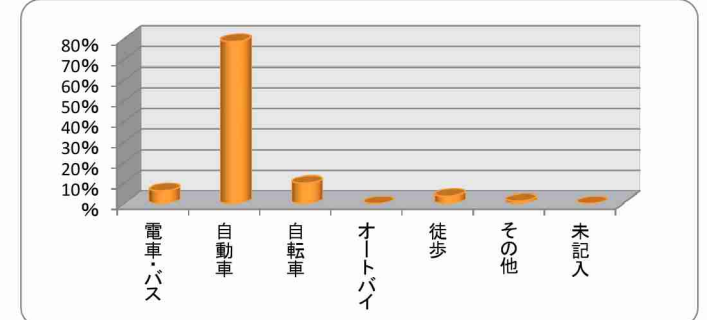
## ○来館頻度



## ○来館目的



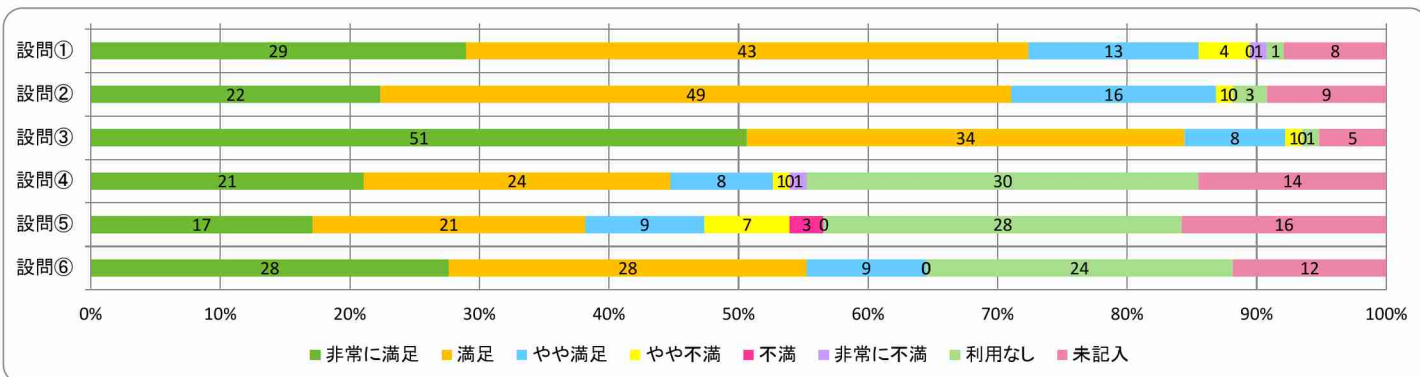
## ○交通手段



・回答者の年齢は、60代の方が26%、70歳以上の方が35%以上で合計すると全体の6割以上になります。  
 ・お住まいは旭市内が全体の半分を超え、残りは県内の市町村の方で、県外の方はいらっしゃいませんでした。  
 ・来館頻度は月に1～2回という方が最も多く全体の4割以上でした。また、週3～4回と週1～2回を合わせた、毎週いらっしゃる方と、年に数回いらっしゃる方が、それぞれ約2割でした。  
 ・来館目的では趣味・娯楽という方が最も多く48%、仕事上・学校・日常の調べものと個人的な研究を合わせた、調べ物や研究の方は40%でした。

## 共通設問

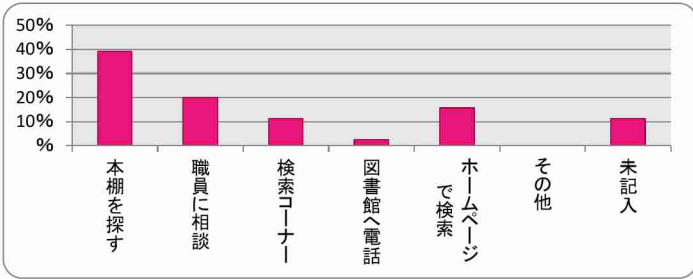
- ①お探しの本(資料)は利用できましたか。
- ②館内案内図や書架の表示、カウンターの表示などは、わかりやすいですか。
- ③職員の対応はいかがですか。
- ④他の図書館からの本の取り寄せの期間や手続きはいかがですか。
- ⑤資料検索機、インターネット等のパソコンでお探しの情報は得られましたか。
- ⑥調べものや探している本のことで、職員に相談したときの回答は的確でしたか。



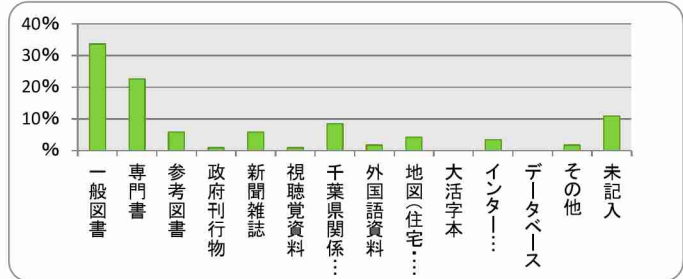
サービス満足度の設問では、設問1から3で、7割以上の方に「非常に満足」または「満足」という評価をいただきました。特に設問3の職員の対応についてが最も評価が高く、5割以上の方が「非常に満足」の評価でした。一方、設問4から6では、「利用したことがない」という方が多くみられ、特に設問4・5ではそれぞれ約3割が利用したことがないと回答されていました。また、設問4から6は未記入率も高く、「利用したことがない」と合わせると、全体の4割程度になります。

東部図書館設問

1. 図書館資料は主にどのようにして探しますか。  
(複数回答可)



2. どのような図書館資料・情報を利用しますか。  
(複数回答可)



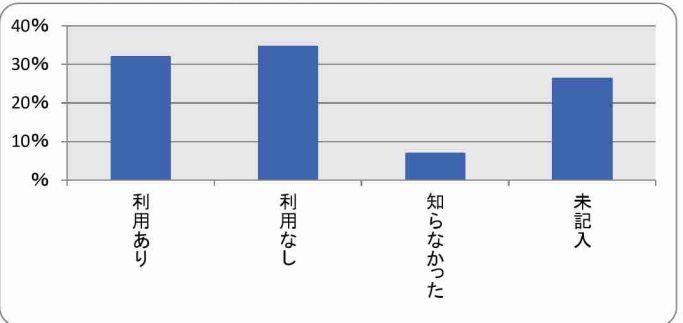
3. 県立図書館では、限られた予算を有効に使うため、各図書館の重点収集分野を以下のように定め、3館での重複を避けた資料収集をしています。

中央図書館: 社会科学など下記以外・千葉県関係・児童資料  
西部図書館: 自然科学・技術・工学  
東部図書館: 文学・歴史

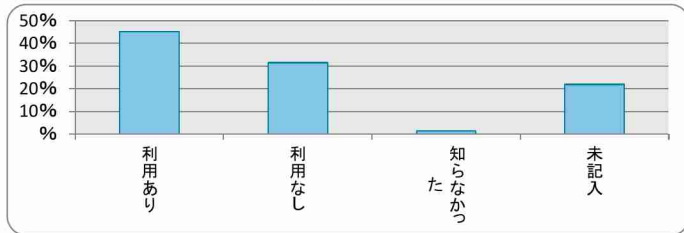


4. 次のサービスを知っていますか。

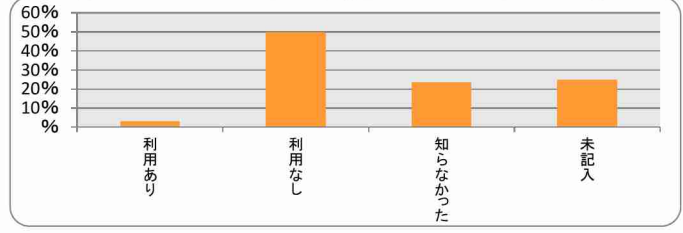
(1) インターネット等で他の図書館の蔵書を調べられる「千葉県内図書館横断検索」



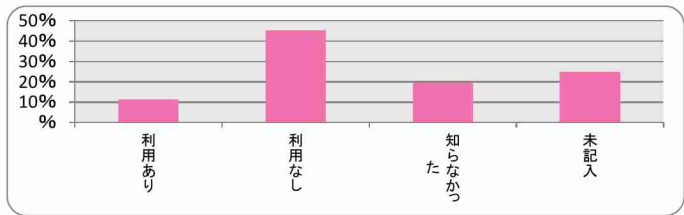
(2) お近くの図書館にない資料の他館からの取り寄せ



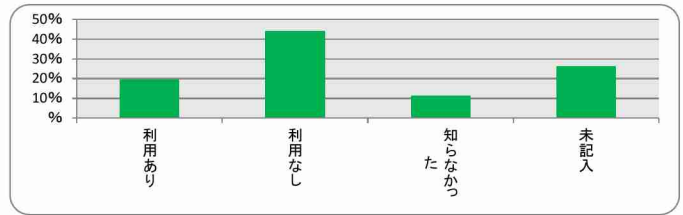
(3) 電子メールによる調査相談「メールレファレンス」



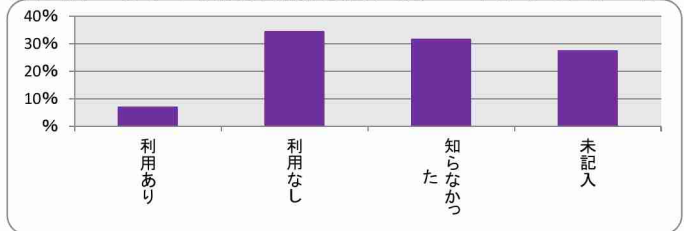
(4) 新聞記事、法律・判例、官報等のデータベース検索



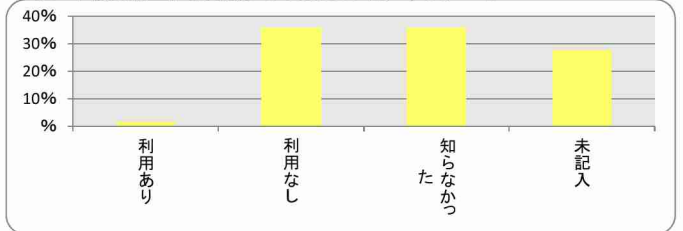
(5) 県立図書館ホームページからの図書予約、貸出期間延長



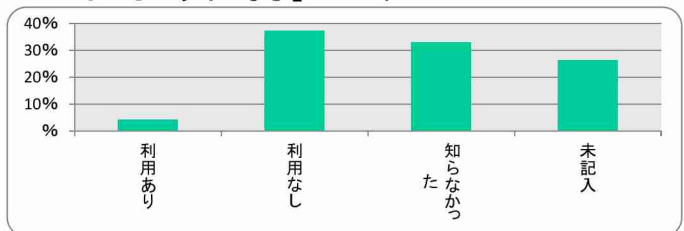
(6) 調べものの手順を紹介したチラシ「パスファインダー」



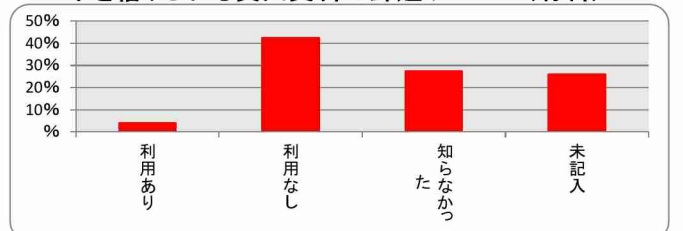
(7) 千葉県立図書館のTwitter(ツイッター)



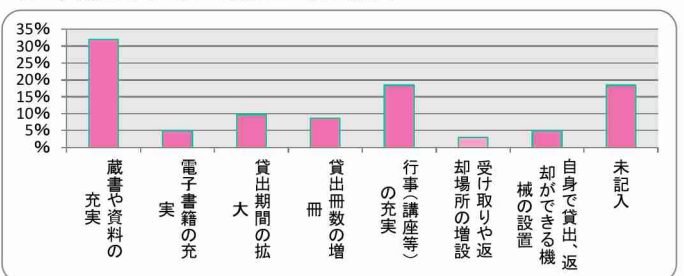
(8) シニア世代の方の暮らしに役立つ情報を提供する「はつらっライブなび」のコーナー



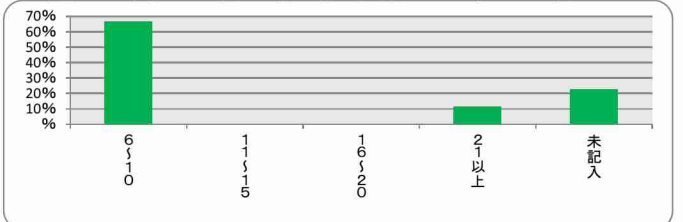
(9) ご自宅から遠い方、開館時間に来館できない方等でも本を借りられる貸出資料の郵送サービス(有料)



5. 今後力を入れてほしい取り組み



※項目E「貸出冊数の増冊」の具体的な希望冊数



利用する図書館資料・情報については、多いものから一般図書34%、専門書23%で、合計すると全体の約6割となります。また、重点収集分野は、「知っていた」と「ある程度知っていた」を合わせた数と「知らなかった」が共に約3割でした。サービスの認知度については、千葉県内図書館横断検索や他館からの資料取り寄せサービスの認知度が高い一方、メールレファレンスやパスファインダー、Twitter、はつらっライブなびのコーナーや資料貸出の郵送サービスの認知度が低くなっています。さらに、データベース検索、ホームページからの図書予約・貸出期間延長については、認知度の高さに対して利用は低い結果となっています。今後力を入れてほしい取り組みでは、蔵書や資料の充実が一番多く約3割、次いで行事(講座等)の充実が約2割となっています。貸出冊数の増冊を希望した方は10パーセントで、具体的な冊数は全体の2/3の方が6~10冊となっています。